

## もし、税金がなくなったら

所沢市立所沢中学校

一年 白木 莉菜

私は税金について、あまり考えたことがありませんでした。

令和元年に消費税率が八パーセントから十パーセントに引き上げられたことがありました。そのときは、色々高くなって大変だな、消費税ってなんのためにあるのだろう、と思っていたけれど、なんとなく当たり前に支払うようなものという感覚でした。今まで興味をもったことのなかった「税金は何に使われているのか、何のために使われているのか」について、今回改めて調べてみることにしました。

まず、税金は国税と地方税の二種類に分けることができ、国税には所得税や消費税、法人税などがあり、地方税には住民税や自動車税、固定資産税などがあります。

例えば、消費税は主に、年金や医療費、介護、少子化対策のために使われていて、全て社会保障財源に充てられることとされています。令和三年の年間消費税額でいえば二十一兆千億円でした。また、所得税は一月一日から十二月三十一日までの一年間の収入から、必要経費を差し引いた金額に対してかかる税金のことです。新たな財源を確保することが主な目的です。令和三年の年間所得税額は二十兆円でした。

それから、税金の使い道として、道路や橋の修理、学校の教科書や様々な備品、それから、災害の復旧・復興などにも使われて

おり、その費用を国民みんなで出し合ったものだということが分かりました。

税金の話をしているとき「税金がなくなればいい」という言葉をよく耳にします。もし、実際に税金がなくなったらどうなのか、税金の使い道と照らし合わせて考えてみました。

単純に考えれば、支払う額が低くなる分、家庭で自由に使えるお金が増え、生活が豊かになると考えがちです。しかし、本当は真逆ではないかと私は思います。もし、税金がなくなってしまうたら、壊れた道路や橋、学校の設備を修理するお金がなくなってしまう、街がボロボロになってしまうのではないのでしょうか。また、警察や救急車を呼ぶときにもすべて有料サービスとなり、利用者はたくさんのお金が必要となってしまい、普段利用している公共のサービスが受けられなくなってしまいうのではないのでしょうか。

さらに、「東日本大震災」や「能登半島地震」などの災害で、壊れてしまった建物や道路、土砂崩れなどがある中で、復旧・復興がここまで進んだのは自衛隊のみなさんの活躍のおかげ、つまりは税金のおかげなのです。そう思うと、税金の大切さをさらに実感しました。

税金とはなくてはならないものです。私たちが出し合っている税金は、必ず誰かの役に立っているのです。ですから、簡単に「税金がなくなればいい」と言っただけはいけません。これからも、税について深く理解していきたいです。